

この曲^{うた}は
世界で一番美しい
約束

【キャスト】

塚本あいり

水無瀬さくら

死

こはる

ひまり

【スタッフ】

照明

音響

【脚本】

作…天野未涼

補作…吹田葵、富山佳乃里、美濃千鶴（顧問）

薄暗い照明のなかで一人ピアノに向き合うあいり。

背景の照明、きれいな色で。

音響、ゆっくり。

死 やあ、ちゃんと会えたね。

あいり はい、ちゃんと会えましたね。

死 君が約束を破らないでくれたから、ここまできちんとコトが運
んだ。感謝するよ。

あいり こちらこそ。あなたには感謝しています。

死 さあ、時間だ……

音響、だんだん大きく。

死、そのまま退場。

音響カット。

あいり 友達がいらない。

? あの人がっこいいよねー。

あいり かっこいい? あいつの? どこが?

? あいりちゃん、よかったらこれお揃いにしない?

あいり なんであなたと? 私たちべつに仲良くもないのに。

? 一緒に移動教室行かない?

あいり だ、大丈夫です。一人で行きます。

? あいりちゃん、ちょっと感じ悪いよ。

あいり は、べつにあなたたちと仲良くするつもりがないだけです。

照明、明るくなる。

あいり けど……

やっぱり友達は欲しいじゃああああああん!

さくらの波の音、フェードイン。

あいら 私は一人浜辺に漂う孤独という名の少女。
いっそのこの海の中、誰かの愛で溺れたい。

そんな寂しさを砂にうずめてピアノの音色の誘うままに……
……え、ピアノ？ 浜辺で、ピアノ？

下手にピアノを弾いている少女。

あいら、後ずさる。

あいら 全部……聞かれてた？

さくら 「なにか？

あいら い、いえ、なんでも。……よかった。聞こえてなかった。

さくら 「お友達いないの？

あいら やっぱ聞こえてんじゃない！……友達いないの、ってなにもそんな直球
で言わなくても……え、ええ、いないですよ。なんですか、あなたも私
のこと笑いにするんですか？

さくら 「(笑う)

私と、お友達になりませんか？

あいら は？ え？ は、お友達？

さくら 「人差し指を顔にもってきて静かに、のポーズ。

同時に波の音。

さくら 「いい場所ですよ。お気に入りの場所なの。家はすぐそこにあるか
ら、いつもここでピアノを弾いて一日を過ごしているわ。

あいら ……

さくら 「目を閉じてみて。……ほら、聞こえる？」「森も近くてね、時々鳥の
さえずりも聞こえるの。そこで私がピアノを奏でる。素敵だと思わない？

あいらり えっと、あの……

さくらら「（構わず続ける）私はピアノを弾く。あなたは話す。日常の中で誰にも言えないあなたの感情、あなたの言葉。あなたの中から現れたすもものを私は聞くの。」

あいらり 「」

さくらら「そう、」

あいらり ……下層民なんです、私。スクールカーストの一番下。ピラミッドの底辺。授業中ペアになった人に無視されたり、嫌な顔されたり。……もともといないものとして扱われたり。いやまあしょうがないんですけどね。私なんかドジで間抜けで、趣味も特技もなければ空気も読めないし、優しいわけでもない。陽キヤも妬むし友達がいる陰キヤも妬む。挙句の果てに全方向で敵を作って……

さくらら「下層民にも、オアシスは必要でしょ？」

あいらり オアシス？

さくらら「そう、オアシス。砂漠のなかで、心と体を潤す場所。一滴の水で命を繋ぐ場所。

あいらり ……明日も、ここにきていいですか？

さくらら「あれ、今日はもう来ないと思った。

あいらり 約束、した……ので。

さくらら「夜なのに、律儀なのね。

あいらり ……今日はピアノ、弾かないんですか？

さくらら「ええ、夜だから。聞きたかった？」

あいらり そういうわけじゃありませんけど。……ほら、こんな海辺にピアノがあるのなんて珍しいし。ていうかなんで浜辺にピアノなんですか？ 潮でボロボロになると思うんですけど、メンテナンスとか……

さくらら「私のピアノ、好き？」

あいらり （独白）いや、聞いてないんかい。……ええ、まあ、なんか、クセになるというか……

さくらら「ピアノは大丈夫よ、あと二週間のことだから。

あいり 二週間？

さくら「……………！（座り込み、咳込む）

あいり ちよっ、大丈夫ですか？

さくら「ばあ……………びっくりした？

あいり ……

さくら「そんな顔しなくても。それに、敬語。

あいり あっ……………

さくら「ふふっ、敬語くせなの？

あいり 別に。今まであんまり人と話したことないので。

さくら「あはは！ そっいえば友達いなかったね。

あいり ……帰ります。

さくら「お名前は？ まだお名前聞いてなかったね。友達なのに。

あいり ……塚本あいり。

さくら「あいり。いい名前ね。

あいり あ、りがとう……………

さくら「私は水無瀬さくら」。それで、今日はどうしてこんな時間に？

あいり あ……………ちよっと先生と話してまし……………話してて。

さくら「あ！ 何話してたか当てようか？ あいりになぜ友達ができないか？

あいり な、違っ……………とまでは言えないかも……………

さくら「？」

あいり え……………と、あの、私がここに居る間さくらさんは……………

さくら「さくらでいいわ。

あいり さくら……………は私の話、聞いてくれるんだよね。

さくら「もちろん。

あいり (軽く咳払い) まあ、友達がいなくていうのもそうんだけど。昨日私、もともとないものとして扱われてるって言ったでしょ。まあ、それがいじめられてるように先生には見えただよ。ああ、もちろんいじめられてるってわけじゃないよ！ むしろ、あー、こういう言い方もアしなんだけど、さ、まだいじめられてた方がよかったっていうか。いじめの相談の解答って『』で悩んだらあいつの思っツボ』だとか、『あ

つらより偉くなっていつか見返そう』だとかでしょ？そういつのつって、『あいつ』っていう対象の相手がいて、『あいつ』も私のことを理解してるってことじゃん。

さくら「……そうね。」

あいら「私ね、それをズルい、羨ましいとか思っちゃってさ。わかってるよ。いじめられてる方が辛いだろうな、いじめって残酷なんだろうなって。それでも自分を見てもらえるその人達が羨ましい。だって私は嫌われてすらない、誰も私のことなんて気にしてない。わかってるわかってるけど。でもそれじゃ私は何のために生きてるの？ 私の存在意義はどこにあるの？ もう頭の中は制御不能だし被害妄想は止まらないし周りには偏見ばかり持ちっちゃうし、馬鹿になりそう。」

さくら「……」

あいら「けど、けどねさくら」。私、昨日さくらに友達になろうって言うてもらえた時、さくらが私のことをちゃんと見てくれた気がして、それでわたし、すごく嬉しかったんだ。

さくら「あいら。自分自身の存在意義を見つけるのは難しいかもしれない。けど、いっぱい笑っていっぱい泣いて、心を満タンにしよう。あいらの心を私で埋め尽くしてあげる。」

あいら「ふはは、なにそれえ。」

さくら「これからもずっとよろしくねって」

あいら「！」

さくら「あいらが映画やドラマの登場人物みたいじゃなくても空気が読めなくても、優しくなくても、私はいつでもここでピアノを弾いてる。ね？」

あいら「……うん！ 私たち会ってまだ二日なのに、何かおかしいね。」

さくら「ほんとな。……ねえ、一緒にピアノ弾いてみない？」

あいら「ピ。ピアノ？ 私、全然弾けない、けど。」

さくら「大丈夫よ。世の中って案外思い込みでできてるのよ。ほら来て！」

(立ち上がってあいらを引っ張る)

あいら「ちょっと……！」

さくら「、あいに音程を教えながら弾いていく。

さくら「 そう！ 上手！

あいに なんか楽しいね！

さくら「 でしょ？ (ピアノの椅子から下りて) 元気が出ない時にはこの曲を弾くの。

あいに そうなんだ。

さくら「 ねえ、この曲、二人で弾いてみない？ ちゃんと練習して、完成した形で！

あいに えー？ いや、私。ピアノなんか全然……

さくら「 じゃあ二週間後！ お互い練習して二人だけの発表会！ 学校にもピア

ノ、あるでしょ？

あいに まあ、あるけど……

さくら「 じゃあ決定ね！

あいに え、ええ……

さくら「 ふふ、楽しみ。

あいに ……うん。楽しみ。

あいに、上手に退場。

照明ブルー。さくらにサイドスポット。

死、仕事についてのアドリブをしながら登場。

死 二週間後、ねえ？

さくら「 ……なに？

死 はは、なにして君、二週間後には

さくら「 わかっている。

死 わかっているならなぜあんな約束した？

さくら「 うるさい。

死 僕の同情でも誘うつもりだった？

さくら「 別にそういうわけじゃ……

死 ……大切な友達と二週間後に約束をしたところで僕は君を生かすことはできない。これは変えることのできない運命なんだよ。君もわかっている

はずだ。

さくら「……」

死 あの子は？ あの子はどうするつもりだ。

さくら「 どうするも何も……」

死 あの子にとって今日は忘れられない日になるはずだ。なんせ初めての友達と初めての約束をした日だからねえ。今ごろ明日どうやって音楽室に入り込もうかと考えてるだろう。……しかし君は約束を破ることになる。あの子を置いていくことになる。

さくら「……」

死 だんまりを決め込むなら教えてやろう。君は最低なことをしたんだ。人の『幸せな』忘れられない日を『忘れたくても』忘れられない日にするというね。……今日の君の行いによってあの子の死の確率が40%まで上がった。もちろん君の死を受け入れずに自殺する可能性だ。この場合あの子の死はイレギュラーな死ということになる。

さくら「イレギュラーな死……」

死 死ぬ予定ではなかった人まで君のせいで死ぬかもしれないということだ。⁸

さくら「！」

死 もう一度聞く。あの子をどうするつもりだ？

さくら「私はただ、あの子と一緒に演奏したくて……演奏ならいつでもできる。なぜ二週間後なんだ。」

さくら「……」

死 とにかく、あの子には早めに断っておくんだな。できない約束は死より残酷だ。

死、退場と同時にクロスカット。

あいり な！ なんですか！ いつまでついてくるつもりなんですか！？

こはる なに！？ ここ！ めちゃくちゃきれいな場所だね！

ひまる 海だ！ こはる！ 海だ！

こはる なに！？ あ！ 海だ！

ひまり　ねー！海でしょ！
こはる　きれい！
ひまり　きれいだ！
あいり　もういいからこれ以上ついてこないでください！
さくらこ　ふふ、今日は賑やかね。
あいり　別に！なんか勝手についてきて！
こはる　誰あの清楚な子！　かわいいね！
ひまり　きれいだ！
あいり　と、友達です！
ひまり　へえ！　塚本さん私たち以外に友達いたんだね！
あいり　友達！？　私と！？　あなたが！？　いつ！？
こはる　塚本ちゃんその言い草はないよお！
あいり　いや、ああもう！
さくらこ　あはは、あいり学校にもちゃんと友達いるじゃない。
あいり　いや、だから……
ひまり　お名前なんていうんですか？
あいり　あつ！
さくらこ　さくらこ。水無瀬さくらこです。よろしくね？　あなたたちは？
ひまり　ひまりと
こはる　こはるです！
さくらこ　ふふ、二人は仲がいいのね。
ひまり　幼馴染なの。えーと……（指で数えて）五歳の頃から一緒！
こはる　それ三の指だけだね。
ひまり　塚本さんとは正直あんまり喋ったことないけどお。
あいり　いやさっき友達って言ったのは！？
ひまり　けど塚本さん学校の最寄り駅のホームでなんかそわそわしてたから。
こはる　つい気になっちゃって！　ごめんね、塚本ちゃん。
さくらこ　そわそわしてたの？
あいり　い、いや、別に……
こはる　ねえねえ二人はいつから知り合いなの？

あいり 友達だけだね。(ぼそっと)

さくら「 うーん。一週間くらい前かな？

こはる えー？ つい最近じゃん！

ひまり えー、それ本当に友達なの？

さくら「 友達の形はいろいろあるの。長い時を過ごしてなくても、少なくとも私

はこの一週間すごく楽しかったもの。

ひまり はえー、なんか難しいね。

あいり ……ってもういいでしょ？ 帰ってください！

さくら「 そこをちよっと曲がったところから見る夕陽は絶景よ。

ひまり へー！ そうなんだ。

あいり って！ 聞いてない。

こはる じゃあひまり、ちよっと寄っていかない？

ひまり 寄っていいっつー！

こはる さくらちゃんありがとう！ 塚本ちゃんもバイバイ！

ひまり ありがとう！ バイバイ！

さくら「 さよなら。」

こはる、ひまり、上手に退場。

あいり、呆然としている。

あいり なんだったの一体……

さくら「 賑やかなお友達ね。

あいり だから別に友達じゃ……。どうせあの人たちにもノリの悪い陰キヤだっ

て思われてるよ。……けど、ちよっと楽しかったかも。

さくら「 そう。それは良かった。

あいり (アドリブでペラペラ喋っている)

さくら「 ……ねえあいり。ピアノの約束のことなんだけどね。

あいり あ！ ピアノ！ 私ね早速今日、音楽室で練習してみたの。そしたらさ、
音楽の先生が……

さくら「 ……そうなんだ。

あいら ん？ どうかした？

さくら「ううん。あいらが楽しそうで私は嬉しいよ。

あいら なにそれ。(笑つ) ど「目線？」

さくら「今日はもう帰ったほうがいいわ。もうすぐ日が暮れちゃう。

あいら もうちょっといたらダメ？

さくら「……じゃあ、もう少しだけ。

あいら よかったあ。私、さくらに頼みたいことがあって。

さくら「なに？」

あいら ピアノ一曲リクエストしてもいい、かな？

さくら「ピアノ？」

あいら あ、迷惑だったらいいんだけど！ さくらこのピアノなんか元気出るっ
ていうか。明日も頑張ろうって思えるんだよね。

さくら「迷惑だなんて。ふふ、何を弾きましょつか？ お客様。」

あいら 私とさくらが初めて出会ったときの曲！ 覚えてる？

さくら「もちろん。」

さくら「弾き始めるが、途中で不協和音が続ぎ、やがて演奏を止める。

あいら どうしたの？

さくら「……ううん、なんでも。あーあやっぱり今日はダメね。

あいら ……大丈夫？

さくら「大丈夫って？ 私にも調子が悪いときくらいいあるわ。

あいら そうじゃなくて。顔色、良くないし……

さくら「……風邪かなあ。

あいら ……風邪か。なら早く治さないとね！ ごめん、引き留めたりなんかして。

さくら「ううん。心配かけてごめんなさい。けど私は大丈夫だから。

あいら ……うん。

さくら「今日は早めに帰ろうかな。

あいら そっか。

さくら「じゃあ、また。」

あいら あ、あの……！

さくら「？」

あいら 悩みごとがあったら言ってね、友達だから！

さくら「……ええ。」

あいら あ、あと！ えっと、あと、たまにこのピアノ借りていい？ 友達だから！

ら！ そ、それから今度さくらこの家族にも会いたい！ 友達だから！

一緒に海を泳いでみたいし、いつか恋バナとかしてみたい友達だから！

さくら「……わかった、あいら。」

あいら これだけじゃないよ、私がこれまで知らなかった世界全部経験するの！

えっと、あと

さくら「あ、あいら」

あいら あ！ 私はさくらがいてくれたおかげで毎日が本当に楽しくなった！

さくら「！」

あいら だから、いっぱいいっぱいありがとうを伝える！ 友達だから！

さくら「……お礼を言いたいのは私の方よ。本当にありがとう。ピアノならいつでも借りて。家族なら明日にでも会わせてあげる。けど、あいら。心配

しないで。私は本当に大丈夫だから。

あいら ……わかった。バイバイ！

さくら「、」上手に退場。

あいら ……どう見ても大丈夫じゃないじゃん。ばかさくら」。

あいら、下手に退場。

照明、変わる。

さくら「「ごめんなさい、あいら……」

死 今日も言えなかったんだな。

さくら「……」

死 ま、僕には関係のないことだ。ただイレギュラーなことは避けたい。責

任問題になるからね。

さくら「そんな、ひどい。」

死 ひどいのは君だろ？ あいりとできない約束をして取り消しもしない。君はあいりのことを思っただけで行動しているつもりだろうが、今の君の選択はあいりを傷つけるだけだ。

さくら「でも、あいりあんな楽しみにしていたのに。今さら言えない。」

死 すべて君が引き起こしたことだろ？

さくら「でも、あいりが自殺するなんて。それだけは止めたい。」

死 どうやって。今の今まで言えなかった君が。

さくら「約束を破るとは言えないかもしれない。けど、お願い、どんな言葉だっていい。あいりを安心させる言葉をかけたいの。」

死 ……「一つだけ方法がある。」

さくら「！」

死 ただし、実行に移すのは君が死んだ後だ。

さくら「それって

死 (さくらに耳打ちする) まあ、やるかやらないかは君が決めることだがね。……君はもう少し、自分に素直になるべきだ。

さくら「えっ？」

死 あいりを偉そうに慰めておいて、君は自分の思いを押し殺している。君があいりの友達になったのは、あいりのためではない。自分のためだ。

『やっぱり友達欲しいじゃああああん』は君自身の心の叫びだったのではないか？

さくら「……キヤラ変わってませんか？

死 何のために生きているのか。自分の存在意義は何なのか。それこそ君がずっと問い続けてきたことじゃなかったのか。

さくら「私は……生きたかった。普通の女の子として。あいりは自分のことを『嫌われてすらない存在』って言ったけど、私は友達のことを悩むことすらできなかった。」

死 君は普通の女の子だよ。ピアノが好きで、寂しがり屋で、どこまでもネガティブで。

さくら「どうせ私はネガティブですよ。」

死 それでいて友達思いの普通の女の子だ。あいは君と出会ったことで今の時間をきちんと生きている。君も今、この時間を生きている。互いの生きる時間を少しずつ重ね合わせて、同じ時間を分かち合う。それが友達だ。だがそれを永遠に続けることはできない。

さくら「……そうね。」

死 ま、僕にとってはどうでもいいことだがね。

さくら「……あなたももう少し素直になった方がよさそうね。」

さくら「(下手に向かいつつ、振り返って)ありがとう。」

さくら「、下手に退場。」

死 イレギュラーは回避したいからな。まったく若い子相手の仕事は手間がかかる。

着信音。

死 ああもしもし、こっちはもうすぐ片付きそうだ。次は？ カリフォルニアで九十八歳女性、老衰ね。了解。

照明、切り替わる。

あいら さくら「ー？ さくら「？」

こはる あれ？ 今日はさくら「こちゃんいないの？

ひまり いないねー。

あいら うん。……ってなんで当たり前のようにいるんですか。

ひまり 「の前さくら「ちゃんがこれからも是非遊びに来てねって言ってくれたんだあ。」

こはる ほら、一昨日あいら「ん、家の用事で「こに来れなかったでしょ？ だから私たちだけで行ったんだよ。」

あいり いつの間に……っていうかなにその愛称。

こはる 塚本ちゃんじゃ距離感じるじゃん？ だから親しみの意味を込めて！

ひまり 私は今まで通り塚本さんでいいかなあ。

あいり いいけどなんかムカつくな。

ひまり じょーだんだよ、塚本。

あいり いいけどなんかムカつくな。

こはる あはは！ あいりん学校でもそれくらい喋ればいいのに。

あいり は？

ひまり 喋ればいいのに！ みんな一気に興味示すと思うのに！

あいり いや、私はそういうのは

ひまり えー、もったいない。みんな誤解してるよね、塚本のこと！

あいり あー、もうその呼び方固定なんだ。

こはる でも、本当にそう思うな。あいりんなんか遠慮してるみたいだし。

あいり 遠慮？

こはる してるでしょ？ ほらいつもこう、自分の意見言わないっていうか、な

に言われても諦めてるっていうか。

ひまり いつもつまらなさそうっていうか？ 学校ではいつもそんな感じだから

今の塚本を見せたいっていうか？

あいり ……別にそういうのいいですから。

こはる 何が？

あいり こうやっていちいち私に構わなくていいってことです。

ひまり な、なにそれ。

あいり とにかく今日はさくらこもいないんですし、帰ってもいいんじゃないで

すか？ そもそも景色を見たいんだったら私と一緒にいなくても二人

で行けばいい。

こはる あ、あいりん？ なんか誤解してない？ 私たち……

あいり め、迷惑だと言ってるんです。急に現れたと思ったらベタベタベタ。

先生に言われたんですか？ 塚本あいりが可哀そうだから話しかけてや

れって。それとも冷やかしてますか？ それとも……

こはる あいりん！ 何誤解してるかわかんないけど、私たち純粹にあいりに

興味を持って話しかけにいったんだよ。それなのに正直感じ悪いよ。

あいり

……は、はは、と、とうとう本音が出ましたね。今まで何があってもそんな言い方してこなかったのに、ようやく私に愛想が付きまじったか。よかったです。よかったです！ じゃあもうお帰りください！ 私はピアノの練習もしないといけなくて忙しいんです。だからもう……帰って。

ひまり

あまえるな！

こはる

！？

ひまり

さくらこちゃんの優しさに甘えるな！

あいり

……は、いや、別に甘えてなんか

ひまり

甘えてるよ！ 自己肯定感が低い自分を受け入れてくれるさくらこちゃんに甘えてる。そりゃさ、誰にだってあるよ。私何の役にも立ってないとか、もうダメだとか。けど、けどそういうのって、自分で自分を受け入れるしかないんだよ。もっと自分を褒めてあげなきゃ！ もっと自分と向き合わなきゃ！ ねえ塚本、世の中そんな悪い人間ばかりじゃないよ？

あいり

そんなのわかってる！ わかってるけどダメなの！ ふ、二人にはわからないと思うけど、人の目っていうのは自分自身の心をぐちゃぐちゃにしてくるの！ どうしようもなく周りが気になって自分のことなんか気にしてる余裕がないの！ 生きてるのなんか嫌になるくらい。生きる理由がない私がここにいていいのかわかんない、この気持ち理解できないでしょ？

こはる

生きる理由、か。生きる理由なんて、実は誰にもわかんなかったりすると思うけどなあ。

あいり

……は？

こはる

目標があったり、守りたいものがあったり。そういうのが生きてることの理由づけにされることが多いけど、本当のことは誰にもわからない。私はそう思うよ？ ……けど、そのかわり喜びや幸せを見つけて、その感情で心を満たして、悩んでることなんか忘れちゃう。さくらこちゃんがあいりにしてくれたのって、そういうことじゃないの？

あいり

……あ、言われた。私の心を満たすにすって。言われた、言われた！

それなのに、その言葉の意味に気づきもしないで、またおんなじこと繰り返そうとした。さくらこでいっぱいにしてくれたのに、私……

ひまり ……ねえ、塚本。私たちも君の心を満タンにしたいなあ。これ本音。
あいり え、あ……

こはる あいりんの周りにいるのはさくらこちゃん一人だけ？

ひまり 私たち先生に言われてしよつがなく話してるなんて言われて悲しかったなあ。

あいり あ、ごめ、私……

こはる もー！ また自分を責めて！ 違うでしょ？

あいり ありがとう。……私ね、強がってたけど二人といるの、すごく楽しいんだ。だから、嬉しい。本当に嬉しい！

こはる 敬語、抜けたねえ。

ひまり 抜けたねえ。

三人、顔を見合わせて笑う。

こはる、ひまり、下手に退場。

そこからさくらこが来ない日が続く。

秒針が鳴り響くなか、照明がどんどん変わっていく。

あいり あれ、今日もない。せつかく来たし、練習でもしよつかな。いっぱい練習して、さくらこびっくりさせよう！

あいり ……今日もない。さくらこがいない間に上手くなって見返してやる！

あいり 今日も。

あいり 今日も。

あいり 今日もない！

あいら さくらこ……会いたいよ……

死 彼女はもうここに来ない。君がいくら待ったってね。

あいら 誰っ!?

死 彼女の友人、とは言えないか。まあ、知り合いだ。

あいら さくらこが来ないって、どっいう……

死 もう、わかってるんじゃないか?

あいら でも、いや、そんなわけ。

死 そんなわけ、あるんだよ。

あいら ……さくらこは死んだんですね。もうこの世には、いない。

死 ああ。

あいら ……っ!

死 寂しいかい?

あいら 悔しい、です。嫌な予感してたのに。私、結局さくらこに何もできな

かった。悔しいです。それに、約束も果たせなかった。

死 いや、そうでもない。

あいら え?

死 おっと。僕はこれで失礼するよ。ピアノ、弾いてみたらどうだ?

あいら あ、あの。ピアノ、聴いていきませんか?

死 いや、いい。遠慮しておくよ。それに僕より君たちの方が、ピアノが似

合っだろう?

死、退場。

あいら ひとりぼっちには慣れてたはずなのに……会いたいよ。ねえ、さくらこ。

(深呼吸をしてから) これは、約束。さくらここと約束した、演奏会。

あいら、ピアノを弾き始める。

弾いている間に照明で雰囲気が変わる。

さくら「登場、一緒に弾き始める。

さくら「あいり、ありがとう。

一瞬、あいりが演奏を止めてしまっが、もう一度に合わせて弾ききる。

あいり さくら「…

さくら「（人差し指を立てて静かに、の動き）

あいり つ、さくら「、私さくら「のところにいきたい！

さくら「あいり、あなたと同じ時間を生きられて、私はとても幸せだった。でも私たちは、ここでお別れ。

あいり 嫌だ！

さくら「あいり、聞いて。あなたの時間が続く限り、私は生きている。あいりの心の中で、あいりが弾くピアノの中で。だからお願い、私を死なせないで。生きて、ピアノを弾いて。

照明戻るが、もうさくら「はいない。

秒針の音が鳴り響く。

照明、冒頭の場面に戻る。

同時に秒針の音消える。

あいり、静かに涙。

死 ちゃんと会えたんだね。

あいり はい、ちゃんと会えました。

死 君たちの演奏は、最高だった。今も耳の奥に残っている。

あいり そんな大げさな。……でもつい昨日のことのように思い出せます。

死 あの時、君がさくら「との約束を守って生きてくれたから、ここまできちんとコトが運んだ。感謝するよ。

あいり いえ、こちらこそ。あなたには感謝しています。さくら「はいろいろな

ものを残してくれました。友情。人に心を開く喜び。そしてピアノ。不

思議ですね。彼女と私の時間が重なったのは、たった二週間なのに。

死 友達の形はいろいろ、だからな。

あいり 私のピアノの中でさくらこは生きてる。私、生きていきます。

あいり、下手に退場。

死 さあ、時間だ。

車のぶつかる音。同時に赤シルエット。

着信音。

死 ああもしもし、こっちはすぐに片付く。

十七歳、女性、事故死。

次は……タイで五十六歳男性、病死ね。了解。

死、上手に退場。

暗転。

波の音、次第に大きくなる。

幕